形質人類學の一問題

今 村 豊

札幌に於ける第 8 回人類、民族學聯合大會の席上、發言が最も活潑であつた問題の 1 つは、形質の年代的、年令的變化に關してであつた。私も發言者の 1 人として、時間の關係上云い足りない所があつたので、この紙上を借りて述べさせて貰いたい。この問題に就いては、外國文献も決して少くないが、こゝでは引用を省略する。

今世紀に入つて、日本をも含む世界共通の現象として、身長が年々増加する事と、頭顔部の計測値及び指數の變化が、指摘される。若しも、この傾向が同じ方向に同じ速さで、過去も存在し、將來もつずくと假定すれば、日本人は推古朝では、身長も頭長幅指數も、零に近く、今世紀末には、身長 2 米、頭長幅指數が 100 に達する計算となる。これは全くの空想であつて、事實、骨其他過去の資料は、この假定を否定する。

人體とその部分の大きさや形は、機能的の制約があり、環境によつて變化し得る現象型とは云つても、遺傳型が變りないとすれば、現象型變化には、自ら限度があつて、一方向で極限に達すれば、逆の方向へ變化が起り、同様な事が繰返えされて、永い年代には波を畫くものと想像される。而してこの波は、人種地域によつて相違のある事も想像される。

この想像は想像として、今世紀に於ける現實の變化は、形質人類學者、殊に計測に従事する人々の無視出来ない問題なのである。

年代的變化と共に、所謂成人に於ける年令的變化も、近年やかましく云われ出した。この年令的變化と稱するものは、實は同一個人を追及した結果でなくて、個人の異なる年令群の比較であるから、各群は出生年代の差があつて、當然年代差も含まれている。又、資料が廣い地域で得られたか、狭い地區に限定されたかによつて、程度の差があるにしても、ある程度地域差の入る事も免れない。

地域差は、從來、重點のおかれた問題であるが、安澤 (1) によれば、山口、廣島兩縣人間には、所謂成人を一括した資料では、身長に有意の差があるに拘らず、この差を年令別に吟味すれば、有意とは認められないと云う。この場合には、年令差の方が、地域差よりも大きい。同様な批判的仕事を原 (2) も發表している。

年代差を含まない純粹な年令差は、同一個人の追及による以外には、得られない筈であるが、改善の方法として、池田 (3) は、古屋 (4) が壯丁を計測した能登半島の同一地區を 17 年後に再調査したが、當時の 20 才は現在 37 才に當るから、古屋の 20 才資料と、池田の 37 才のそれとの差を以て年令差とした。次に古屋の 20 才と池田の 20 才とを比較して、年代差とした。彼の身長及び頭長幅指數に關する結果を、一口に云えば、所謂成人で年代差は年令差よりも大である。同様な試みを小濱 (5) も近畿地方で行つてゐるが、結果は大略、池田と一

致する。

厳密に年代差、年令差及び地域差を分離する事は難しいが、上述の如くある點までは、可能である。この目的のために、私は、昨年解散した生體測定班が、近き將來に再結成されるのを期待する。そして同一學者が、同一器械を用いて、同一方法で、同一地區資料を、出來得れば、前回と同一個人に就いて、計測する事を希望する。

成人の所謂年令的變化は、人種、地域、年代によつて必しも同一ではない。島(6)は蒙古人、朝鮮人等の成績を發表しているが、變化の傾向は、多少日本人のそれとは相違し、又西歐の結果とも一致しない點がある。

扨て、成人に於ける計測數値の所謂年令的變化は、否定出來ないものとすれば、從來の如く、各年令を一括し、計測された年代を無視した人種の比較や、地方型のそれは、再吟味を要するのは云うまでもない。この事は獨り生體測定の問題であるばかりでなく、骨格の業績でもそうである。

例えば、身長と相關々係のある四肢長骨の長徑の如きもので、年代及び年令を異にする資料を一括したものが、何を意味するであろうか。又、頭骨にしても、長幅指數は、年代、年令によつて變化するのに、新舊老若を一緒にした全體が、大雑把に異人種との比較に役立つ以外には、何を意味するであろうか。

しかし實際問題として、同一地區の同年代生れの資料を充分揃える事は、生體に於てすら、極めて容易でない。まして骨格となれば殆んど不可能に屬する。だからと云つて、條件を異にするものを、そのまゝ一括する事の合理性は生れない。それならばどうすべきであろうか。

先ず第1に、年代的、年令的變化を正確に掴む事である。次にこの變化形式に従つて、資料各個體の計測値に、補正を施し、全資料を悉く同一年代、同一年令に還元し、云いかえれば同一條件下に置いて、然る後、比較が行われれば、始めて公平な判斷が出来るであろう。

文 献

- (1) 安澤：1951. 日本人男子受刑者に依る形質人類學的研究、人類學輯報、特集第1號
- (2) 原：1953. 頭長幅指數について、第8回人類民族學會、講演
- (3) 池田：1953. 頭形の變化について、第8回人類民族學會、講演
- (4) 古屋：1937. 民族生物學研究、第4輯
- (5) 小濱：1953. 近畿地方人形質の年令的差異について、第8回人類民族學會、講演
- (6) 島：1937. 身體的諸測度の所謂大人に於ける年令的變化、人類學雜誌、第52卷

(新潟醫科大學解剖學教室)

A Note on Changes in Anthropometric Traits

YUTAKA IMAMURA

Up from the begining of this century, a universal and still growing tendency has been noticed with the stature to increase and with the dimensions or forms of head and face to gradual changes. The bodily traits presumably change under the influence of environmental factors. But they have such a close relationship to the physiological functions that the changes to be caused from environmental factors

are limited to some extent, if the traits are fixed from genetical point of view.

There are also found bodily changes in adults. Recently YASUZAWA reported a fact that the difference was significant between mean values of stature of adult inhabitants of Yamaguchi Prefecture and those of Hiroshima Prefecture, but it turned out to be nonsignificant when the averages are taken for the data according to age groups and compared among the same age groups restrictively. In this case the age factor is more dominant than the areal factor. A similar result was obtained by HARA. IKEDA measured the inhabitants of a district in Noto Peninsula where KOYA had performed an anthropological research seventeen years before, and found that in respect to stature and cephalic index the differences between means for same age groups of IKEDA and KOYA were larger than those between the means for KOYA's age group and for IKEDA's, the age of which was seventeen years older than that of the former. KOHAMA also found a similar fact in Kinki district. Changes of anthropometric traits in adult life seem to have different tendencies according to different races, habitats or periods. SHIMA's studies on Mongolians and Koreans suggest us such a fact.

It is concluded from the above mentioned facts, that the bodily traits either of living or skeletal objects should be compared among same age as well as same period groups when we are to inquire into the difference of them among races or areal populations. For this reason more studies are hoped to be carried on in regard to changes in bodily traits according to ages and periods.